



HAFU ADAI (ハツファ・アテイ - 先住チャモロ人の言語で「こんにちは(やあ元気?)」)

<http://www.jcguam.org/jsg/top/>

2012年3月31日号

グアム日本人学校
校長 中村 宏

グアム日本人学校 その4

卒業式・修了式そして始業式・入学式 お別れと出会い

2011年度の卒業式が3月15日に行われました。小学部と中学部の卒業生が、希望を胸に巣立っていきました。ただし、小学部卒業生はそのまま本校中学部に進みます。中学部卒業生は、いよいよグアム日本人学校とお別れです。グアムの現地高校へ進学する生徒や、日本の高校への進学を予定する生徒と、いろいろです。

以前からお伝えしているとおり、本校には体育館がありません。そのため、卒業式や入学式などの儀式的行事は、小学部2年生～4年生までの隔壁を撤去して、広い場所を作ります。この作業が大変なのですが、1年に1回は必ず行わなければなりません。

卒業式も、グアム日本人学校小中学部、同幼稚部、そしてグアム補習授業校と3回行われます。卒業式で使った式場は、今度は入学式でも使うために、4月中旬までこのままにしておきます。その2012年度入学式は、4月13日に行われます。



本校に限らず、日本人学校は一般的に国内公立小中学校よりも春休みが長いです。それは、教員の異動や児童生徒の転校に必要な期間を確保するためです。そのため、夏休みは反対に国内校よりも期間が短いのが普通です。

3月から4月にかけて、日本国内と同じようにグアム日本人学校でもお別れと出会いが続きます。春休み中の児童生徒は、新たな出会いへの期待に胸を膨らませていることでしょう。

体育館建設 大きく前進

長い間の懸案であったグアム日本人学校の体育館建設が、いよいよ具体化してきました。児童生徒がずっと待ち続け、関係者が声を上げ続け、募金活動もしてきたグアム日本人学校の体育館建設について、1月、外務省より「来年度の海外教育関係予算政府案に、グアム日本人学校体育館建設に係る予算が計上された」旨の連絡が入りました。外務省、そして財務省を本件が通過し、政府予算案に計上されたということは本当に大きな前進だといえます。

グアム日本人学校に体育館が出来たら…と思うだけで、実に多くの場面が、次々に頭の中にふくれあがっていくのは、グアム日本人学校関係者なら誰でも同じでしょう。炎天下ではなく体育館で行う体育の授業、跳び箱だって、ドッジボールだって、鬼ごっこだって、バスケットボールだってできてしまいます。入学式や卒業式は、広い式場で立派に執り行えるようになります。入学生や卒業生も、これまで以上に胸を張って式に臨めることでしょう。そして、学習発表会だってよその会場を借りに行かなくても体育館で出来ます。練習だって、思い切り体育館を使ってできます。本当に、本当に、早く実現すると良いなあと思ってしまう。



校庭で行う中学部体育「武道（相撲）」風景

グアムの歴史探訪 - 太平洋戦争中の日本との関わり 来島の「鳥海研」メンバーと野外研修

2011年12月下旬、鳥海研（鳥取県海外子女教育国際理解教育研究協議会）メンバー等がグアムに来島し、クリスマスイヴの24日には、標記の視点で野外研修を行いました。この研修には、メリッソ村のアーネスト村長が直接講師を務めて下さいました。

今は日本人観光客で賑わうグアム島も、実は第二次世界大戦中は戦場でした。しかも、太平洋戦争の舞台（戦場）の一つとして日本と深い関わりを持っているのです。

日本軍が真珠湾攻撃をした1941年12月8日直後、グアム島も攻撃対象となります。そして、12月10日には日本軍はグアム島を占領しました。その後は史実が示す太平洋戦争の趨勢、つまり、開戦当初は優勢であった日本軍も、やがて米軍を中心とした連合国軍の総反撃を迎え撃つこととなります。1944年7月21日、ついに米軍はグアム島奪回を目指して上陸作戦を開始しました。日本軍は激しく抵抗しましたが、米軍は8月にはグアム全島掌握を宣言しました。この戦いで、約2万名の日本軍兵士が戦死しました。もちろん米軍にも戦死者は出ました。しかし、忘れてならないのは、グアム島の原住民であるチャモロ人の戦争による被害です。

遠い昔、グアム島に移り住み、平和に暮らしてきたチャモロ人たちでしたが、1521年にマゼランがグアム島を「発見」したためにその後スペインの植民地となり、さらに支配者はアメリカに変わり、上記戦争で日本が占領、さらにアメリカが奪回という歴史があります。米軍上陸に際しての戦闘で、多くの戦死者が出たのは前述の通りですが、元々この戦争には関係のないはずの原住民であるチャモロ人にも死傷者が出ました。さらに、日本軍によりチャモロ人が殺される事件も起きています。我々現代の日本人にとっては、この出来事はとても残念なことであり、その話を聞くことはつらいことでもあります。それ

でも、標記の野外研修は、グアム島を訪問した機会に、こういう歴史について少しでも知っておこうとするためのものでした。

当時被害を受けたメリッソ村の、現村長さんが、我々日本人訪問者に時間をかけてじっくりと説明をして下さいました。参加者全員、この話を聞くのはもちろん初めてのことでした。その話を聞いた参加者は、各々様々な受け止め方をしたことでしよう。たくさんの村長さんのお話の中で、「今の日本人に責任を問うつもりはない」「平和に手を取り合って生きて行けばそれでいい」と話された部分が特に印象的ではありましたが、少なくとも、その言葉を聞く大前提として、グアムを訪れる日本人であるならば、グアムの歴史にも目を向けてみようとする態度は不可欠であると痛感しました。



歴史的現場での村長説明を聞く参加者一行



道路側壁への壁画描き作業

グアム島では、道路に面した側壁に壁画が描かれているところがたくさんあります。偶然、その壁画を描いている場面に遭遇しました。詳しい話は聞いていませんが、ボランティアで作業を行っている風でした。

絵も、独特の味わいのあるタッチです。

後書

私がグアム日本人学校に赴任して以来2年が終了しました。そして、いよいよ最後の年である3年目となります。

ここまでの2年間は、どちらかというところ「苦しいこと」「大変なこと」の連続であった気がします。ただ、それも過ぎてしまえば一つの思い出ではありますが、やはり一つ一つの経験をしたからには、今後の取り組みにそれらを生かすことが必要となります。全ては「子どものため」という視点で取り組むことを絶えず念頭に置くようにしています。

3年目は充実の年、そして「楽しいこと」「嬉しいこと」「やりがいのあること」がたくさんある年にしたいと考えております。